

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 第2次整備提案書

### 1 整備提案の概要

整備提案名	花*花に楽々水やり
提案グループ名	花*花倶楽部
整備したい場所	都筑区 荇田南5丁目
想定整備費用と整備助成申請予定額	想定整備費用 360万円 整備助成申請予定額 340万円
整備したい施設の概要	地下式雨水貯留槽：セル型構造 2.88×2.88×H1.04m有効貯水量 8.6 m <sup>3</sup> (花壇灌水約4日分) 自給式ポンプ：AC100V・0.4kW×1個 雨水貯留槽：ウイスキー樽(60L)の加工。屋根樋から分流させた雨水を集水。樽にはペンキで各店舗の名前を書く。 樽設置架台：レンガ積み 1.0×0.8×0.2mの枠に化粧砂利を入れ、レベルをとる。周りは花鉢で修景する。 樹木雨水集水器：ゴムシート加工(外径 0.4m)、ビニールパイプ導水管、ペットボトル再利用。 【整備断念】 地下水を利用した井戸：理容店の地下水を利用した井戸については、専門家の指導のもと、水量・水質などを調査した結果、水量不足・水質の問題から断念した。
設計及び工事のスケジュール (設計、工事発注、完了時期など) <small>注1)</small>	恒例の4月の花*花まつりに間に合うようにスケジュールを組む。 平成18年1月：調査、測量 計画の詳細な詰めと調整 2月：設計図の作成 雨水貯留槽、樹木集水器の材料発注 樹木集水器、ウイスキー樽の加工作業 3月始：地下貯留槽工事発注 樽周りの修景工事 樹木集水器の取り付け 3月末：工事完了
維持管理の方法	花*花倶楽部のメンバーや花壇オーナー、えだきん応援団、商店会などが協働で維持管理を行っていく。 樋分流器の清掃：1回/月 樽の水漏れ点検：1回/月 水落とし：厳冬期の凍結防止(冬場のみ) 自動給水ポンプの点検：1回/年 地下貯留槽の点検：1回/年

注1) 工事完了後、横浜市が完了検査を実施します。また、必要に応じて中間検査を実施する場合があります。

### 2 公共性について

提案の背景にある地域の課題やニーズについて、記入してください。	【これまでの経緯】 荇田南近隣センター商店街の歩行者専用道路を花でいっぱいにして、周辺の住民や商店街の人たちが憩い、集い、買い物を楽しむ空間にしていきたい。そんな思いで商店街と小学校、土木事務所、地域住民が連携し、ハマロードサポーターとして花壇作りをしてきた。犬の散歩や、赤ちゃん連れのお母さん、小中学生、車いすの人などがたくさん集まってきている。最近では歩行者専用道路に面したデイサービスのお年寄りが花を眺めながら散歩するなど、淋しかった近隣センターの歩行者専用道路が人々の憩いの場所となってきている。 しかし、四季ごとに花を植え替えたり、水や肥料をやったりと、花の維持管理は大変である。そこで花壇オーナーを募集し、地域の方と一緒に花の手入れをやらせようと考えた。 【地域の課題】 現在、花壇オーナーは3名だが、自由に使うことのできる水の設備がないため、店舗が開いている時間しか水やりをすることができず、また水をもらうにも店の奥から運び出す必要があるなど制約が多く、花壇オーナーの応募に踏み切れない人も多く、商店街にとっても負担が大きい。 【地域のニーズ】 11月末には、商店街の駐車場の返還も決まり車利用者は期待できなくなる。今後、「居心地が良いからまた行きたい」と思ってもらえる様な空間作りはますます大切になってくる。花でいっぱいの心地よい空間を作るためには、花壇オーナーや花好きの人が気の向いた時に花壇にきて、気兼ねせずに自分のペースで水やりができるようになることが望まれる。
整備したい施設が、どのような人たちに利用され、また地域でどのように役立つと考えますか？	【花壇オーナー】 花壇オーナーに、気軽に自由な時間に花の世話のために利用してもらいたい。 【地域の人】 デイサービスのお年寄りや道を通る子どもたちなどが、気がついた時にじょうろを使ったり(雨水貯留槽)、子ども達が絵を描いたペットボトルにたまった水をやりたり(樹木雨水集水器)と、花をかわいがる人の輪ができればいい。 花をきっかけとした人の交流により、駐車場がなくなっても花を楽しみながら商店街を訪れる人が増え、集客効果が上がる可能性も出てくる。 【地域に与える効果】 ただ水をやる機械ではなく、手作りとする事で設備そのものが心とまわせる存在になると考える。自分たちで作ることによって、愛着が生まれ、より親しまれる場ともなっていく。 雨水利用やそれを使った打ち水などは、地球温暖化やヒートアイランド現象に対して効果がある。また、雨水利用や打ち水を目の前で見られ、花の成長を身近に感じることができるなど、生きた教材として環境教育の場にもなる。 地下式雨水貯留槽は初期消火や災害時の非常用水などとしても活用できる。

### 3 創意工夫について

<p>整備したい施設について、計画上創意工夫している点を記入してください。</p>	<p>【地下式雨水貯留槽】 えだきんパークの貯水槽のみは地下埋設で電力による給水が必要。将来はソーラー電気を動力にしていきたい。(現在はまだメンテナンスコストが高すぎるが…)</p> <p>【雨水貯留樽】 屋根の雨水をためる装置にはウスキー樽を利用。木のぬくもりで、花壇との調和をとる。木は加工しやすいので、自分たちでデザインを考え加工する。樽のまわりも花壇にして、美しいまちにしていきたい。</p> <p>【樹木雨水集水器】 樹木からの雨水については、傘の部分と、ペットボトルに子どもに絵を描いてもらう。参加することで花壇に関心を持ってもらい、雨水がたまっていたら花壇に水やりをして帰るという習慣ができたらうれしい。</p>
<p>整備工事における地域での費用や労力の負担について、創意工夫している点を記入してください。</p>	<p>自ら体を動かし、工夫したり加工したりすることで愛着がわいてくる。地域の人たちが日常的に関わることによって、常によりよい物へと変わっていき、大切にされるようになっていく。</p> <p>● 労力</p> <p>【雨水貯留樽】 樽の加工や設置、花での装飾などは市民自らですることができる。</p> <p>メンバーとしては、商店会、えだきん横丁応援団、地域の緑の市民活動団体、花壇オーナーなどがいる。</p> <p>【樹木雨水集水器】 はまっ子ふれあいスクールや近隣センター内にある学童保育所の子どもたちに絵を描いてもらう。ペットボトルを使うことで壊れても取り替えやすい。マイボトルがあればもっと楽しい。また、皆で実際に試作品を作ってみる予定。</p> <p>● 費用</p> <p>花募金や商店会とえだきん応援団と一緒に開催するまつりの収入から調達することが考えられる。現在花募金は花苗に充てられている。</p> <p>また、参加ボランティアの労力に対しては、すでに荏田近隣センターで使っている地域通貨「リーフ」を支払うことで評価する。</p>
<p>整備後の維持管理における地域での関わり方について、創意工夫している点を記入してください。</p>	<p>【活用アイデア】 花壇オーナーが増える事で、特色ある花壇作りができる。(テーマを決めて花壇のデザイン発表会、緑の会やNPO集住グリーンネットワークによる花植え講習会など)近隣の地域住民や近隣センター利用者なども花壇作りに気軽に参加することが可能になり、地域として維持管理を行っていくかたちができる。</p> <p>【雨水貯留樽】 ウスキー樽は木製なので補修がしやすい。地域の人でもメンテナンスに参加できる。商店主と住民の連携。商店の前に設置することで、対話が生まれる。</p> <p>【樹木雨水集水器】 地域作業所、福祉NPO、学童保育所など多くのNPOがある商店街特性を活かす。ペットボトルを利用することによる軽量化など、誰もが気軽に扱える装置の工夫をする。</p> <p>雨が降ったら雨水がたまるから楽しい。晴れたら水やりするのが楽しみ。雨でも晴れても気になり、毎日が楽しくなる。</p>

### 4 実現性について

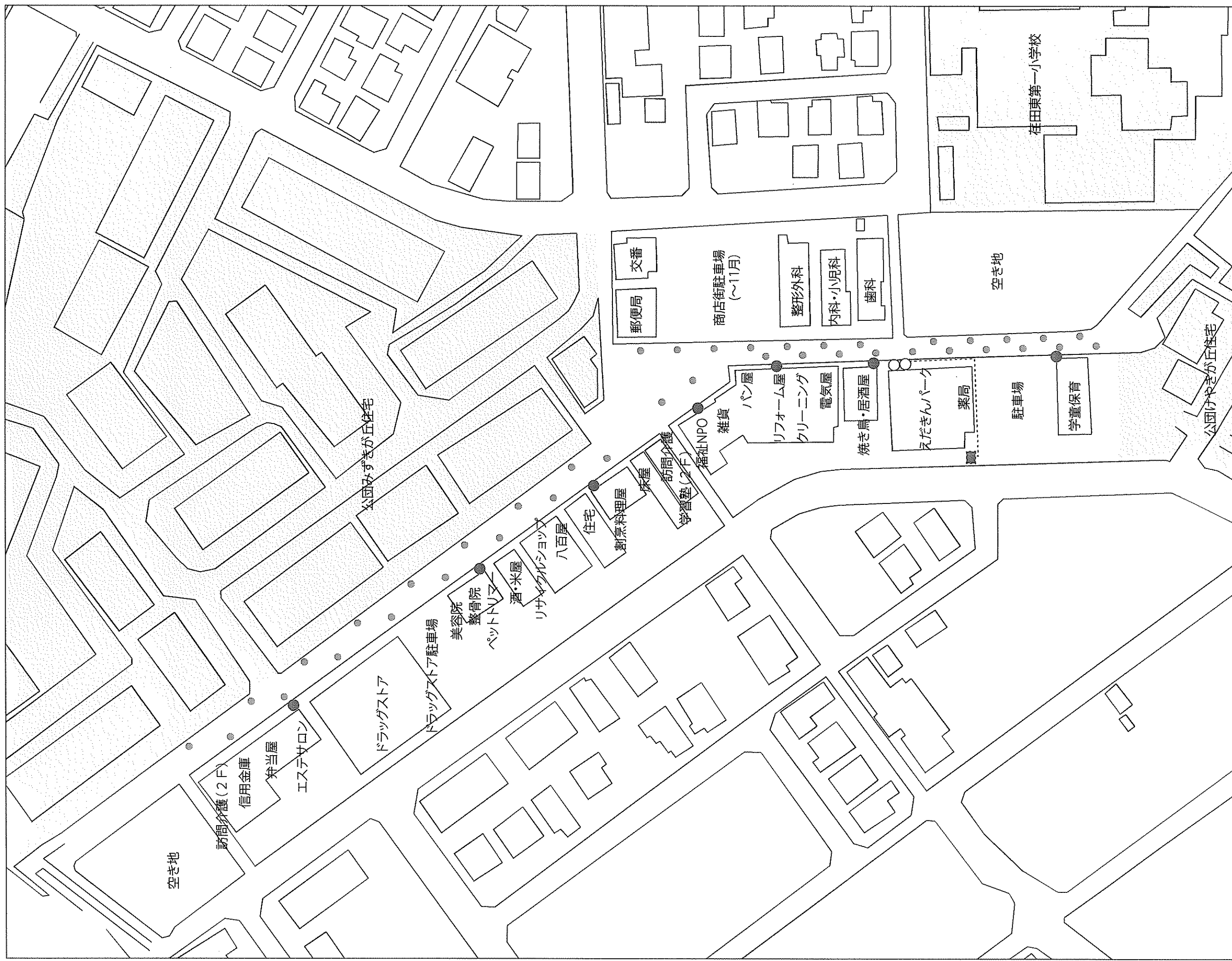
<p>整備計画について、関係者との調整状況等を記入してください。</p>	<p>雨水の誘導工事については業者に依頼。</p> <p>商店会、店主については了解済み。地権者との了解はほぼ達成。(一部調整中)</p> <p>花壇オーナー、えだきん応援団、はまっ子ふれあいスクール、学童保育、緑の会については、これまでも花壇作りで連携を行ってきている。今回の整備に関しても、樹木雨水集水器は子どもたちの絵を参考に試作品を共同で製作することになっている。雨水貯留樽についても試作し、歩行者専用道路に展示したり、12月11日のイベントで用いたりして、地域へのPRにも用いていく。</p> <p>また、花*花倶楽部にそれぞれのメンバーがいて情報を共有しながら進めている。</p>
--------------------------------------	--

### 5 地域まちづくりへの発展性について

<p>整備をきっかけに地域のコミュニティ形成やまちづくり活動が進展する可能性について、記入してください。</p>	<p>【人が集う地域の拠点】 花壇オーナーや水やり隊が増えることで花壇の維持管理ができるだけでなく、花についての情報交換の場となる。散歩する人とのコミュニケーションが生まれる。えだきんパークが地域の拠点となり、様々なイベントが行われる。</p> <p>常に人が行き交うことで、子どもやお年寄りなどに温かい目が常に注がれる安心して住める町になる。ニュータウンでも、そんな人情溢れる横丁を再現したい。</p> <p>災害時などにも、地下式雨水貯留槽の水を活用するなど、すぐ隣の小学校と連携した地域の防災拠点にもなる。</p> <p>【環境を考える商店街】 施設を目に見える形で地域が管理することにより、難しいことをいわなくとも、ここに来れば自然と環境について学べる「環境の見本市」の様な町おこしの発展性もある。昨年度からは地球温暖化防止講座を実施しており、自然エネルギーの実験なども行うなど、地域の関心は高い。</p> <p>将来的にはソーラー電池も整備し、自然エネルギーの活用を進めていきたい。</p>
--	--

### 6 特にPRしたい点

<p>整備提案について、特にPRしたい点があれば、記入してください。</p>	<p>楽しい、気になる、手を出したくなる、そんな整備案だと思う。これまでこの荏田近隣センターに関わっていた様々な分野の人たちが、今回ひとつのイメージを共有して持てる力を出し合った結果である。すでに一次コンテストの後、花情報を寄せてくれる人や苗の提供など、今まで以上に参加が広がっている。</p> <p>緑は温度差を生み、常に風が生じるという。花を見て和むだけでなく、風を感じることで人々の憩いの場を作ることができる。</p> <p>賑わいが戻り始めた商店街にとっても、駐車場がなくなってしまうという重大な問題を抱える今、より地域の人にとって親しみのある空間を作り出すことは重要になってきている。そんな中、歩行者専用道路という立地を活かし、花を通じてコミュニケーションが広がる様なまちづくりをしたいと一同張り切っている。</p>
--	---

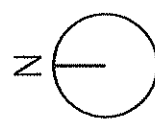


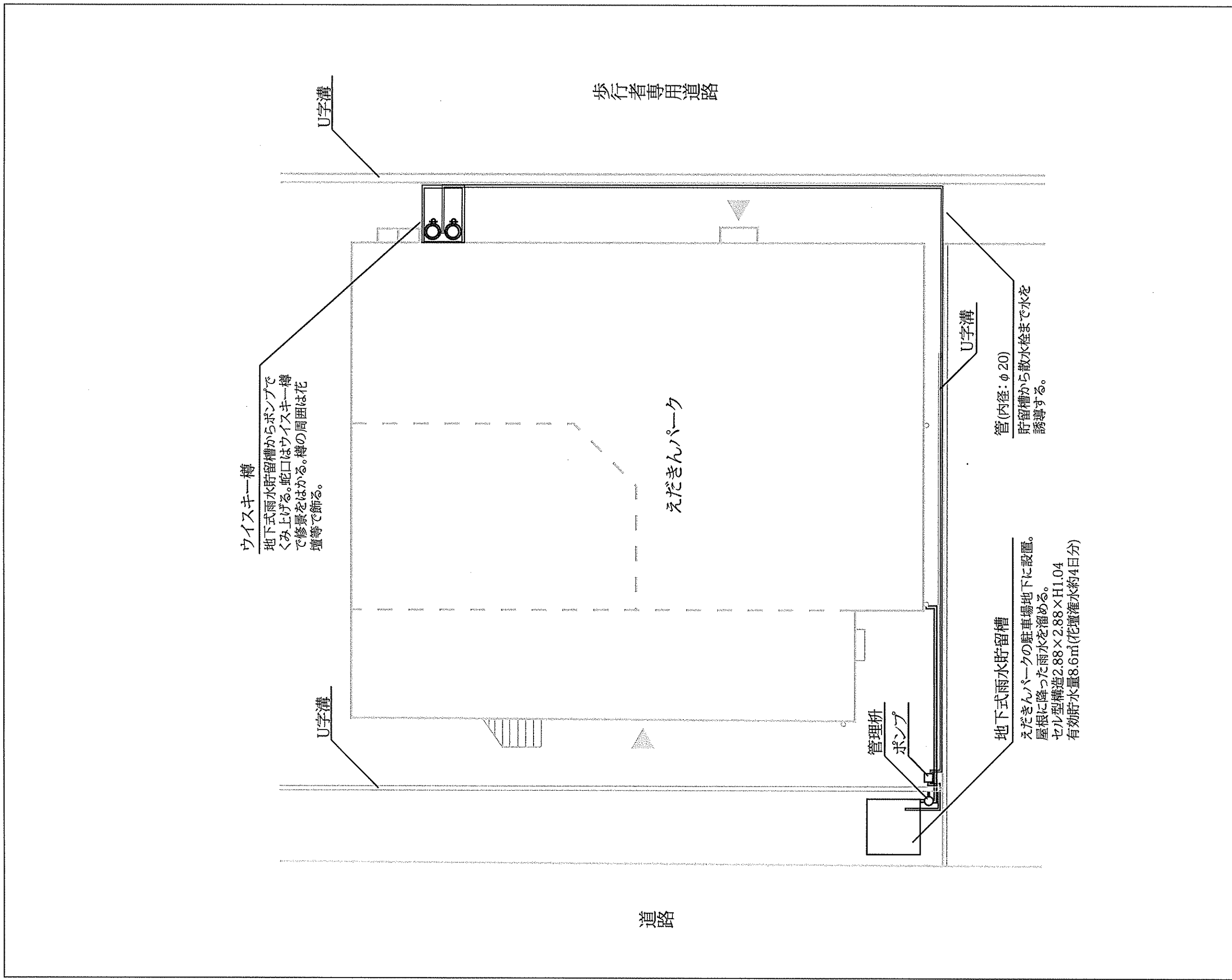
### 設置箇所 位置図

- 地下式雨水貯留槽 ○ ウイスキー樽(修景用) ..... 送水管
- 雨水貯留槽 ● 樹木雨水集水器

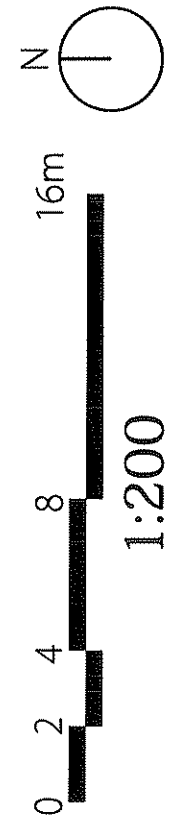


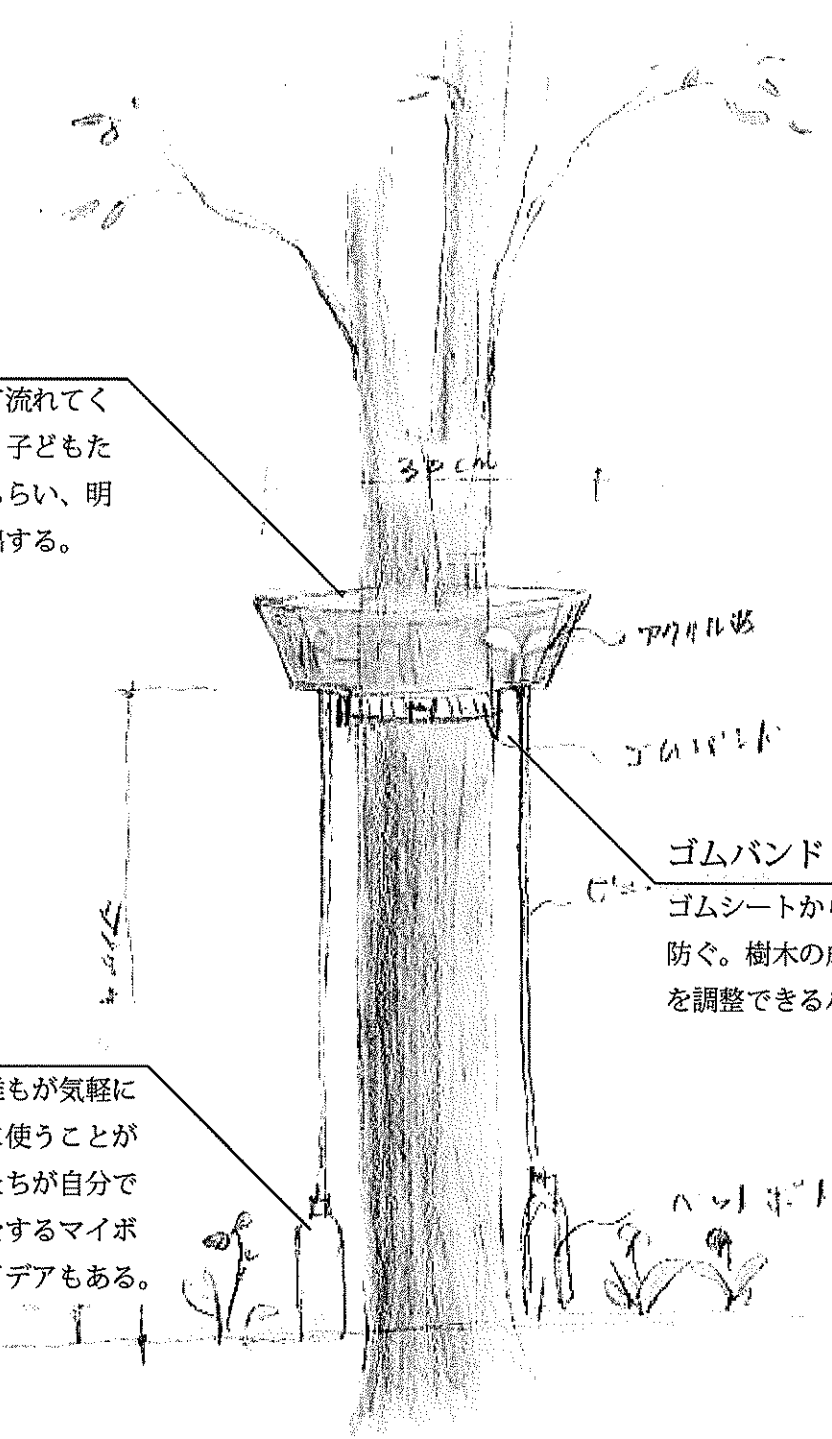
1:1,000





えだきんパーク 平面図





**ゴムシート**

樹木の幹に沿って流れてくる雨水を溜める。子どもたちに絵を描いてもらい、明るい雰囲気を演出する。

**ペットボトル**

水がたまったら誰もが気軽に水やりや打ち水に使うことができる。子どもたちが自分で絵を描き、管理をするマイボトルのようなアイデアもある。

**ゴムバンド**

ゴムシートから水がもれるのを防ぐ。樹木の成長に応じて太さを調整できるバンドを用いる。

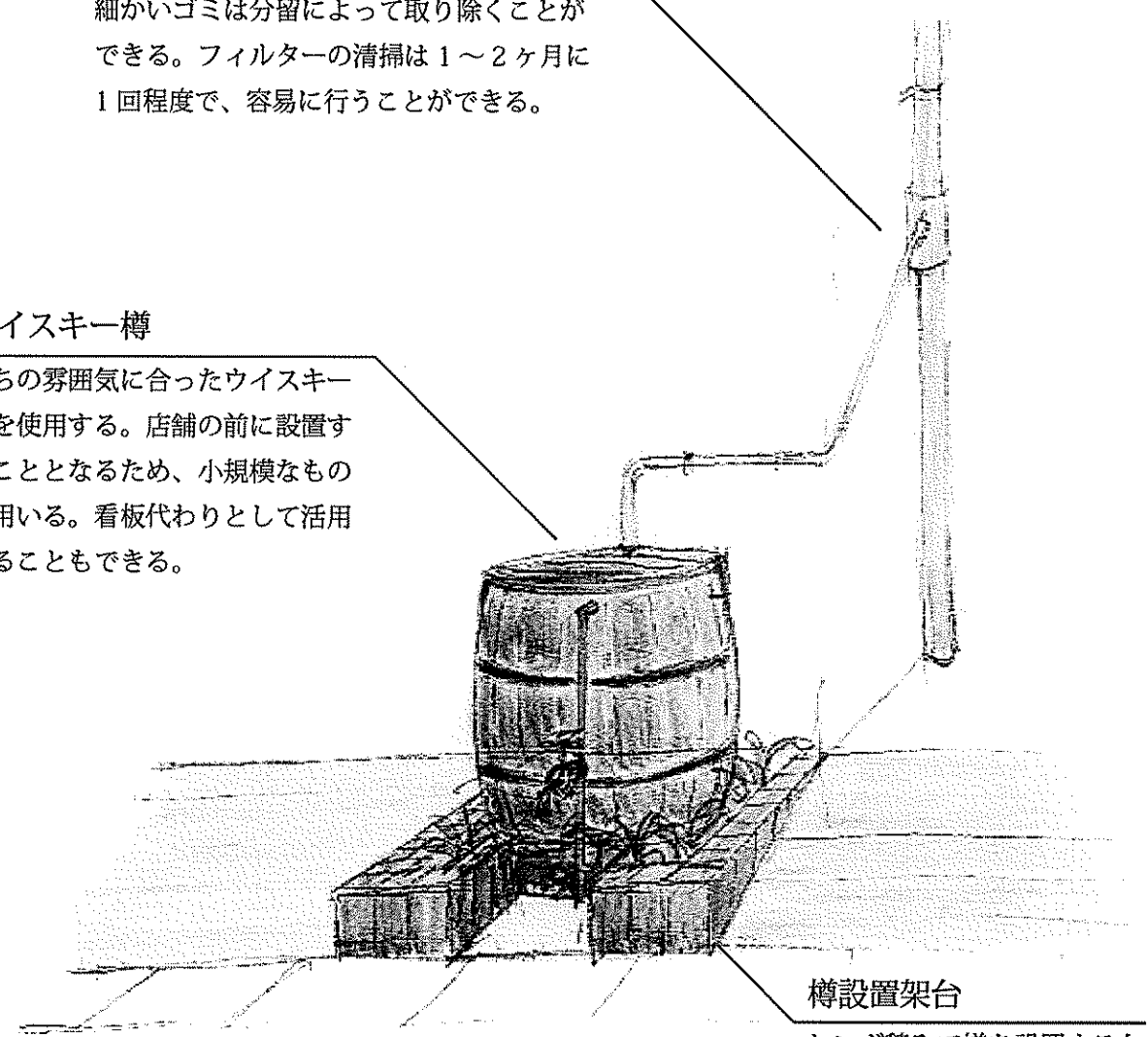
樹木雨水集水器

**雨水分留除塵器**

枯れ葉などの大きなゴミはフィルターで、細かいゴミは分留によって取り除くことができる。フィルターの清掃は1~2ヶ月に1回程度で、容易に行うことができる。

**ウイスキー樽**

まちの雰囲気に合ったウイスキー樽を使用する。店舗の前に設置することとなるため、小規模なものを用いる。看板代わりとして活用することもできる。



**樽設置架台**

レンガ積みで樽を設置する台をつくる。周りは花で飾って明るい雰囲気を演出する。

雨水貯水樽

完成予想図

# ヨコハマ市民まち普請事業

## 想定整備費積算内訳書

項目	細目	内訳 (単価×数量) 注1)	整備費 小計 (円)	助成申請額 (円) 注2)
設計費	調査・測量	50,000円×1日	50,000	50,000
	平面図(A3)	50,000円×2枚	100,000	100,000
	各部詳細図(A3)	30,000円×2枚	60,000	60,000
	小計		210,000	210,000
工事費 (資材費や機器リース料等も含む)	地下貯留槽 有効貯水量 8.6㎡			
	籠状ブロック槽 2.88×2.88×1.04m	897,000円×1ヶ所	897,000	897,000
	籠状ブロック組立て	307,000円×1ヶ所	307,000	307,000
	雨水分留除塵器 初期雨水ろ過器	75,000円×1ヶ所	75,000	75,000
	自給式ポンプ AC100V・0.4KW	150,000円×1ヶ所	150,000	150,000
	土工事	アスコン打替え 5,600円×16.0㎡ 掘削 1,200円×21.5㎡ 埋め戻し 1,200円×10.1㎡ 残土処分 7500円×11.4㎡ アスコン処分費 30,000円×0.6㎡ 送水管埋設 100,000円×1.0式	331,020	331,020
	雑材料費	50,000円×1.0式	50,000	50,000
	機器施工費	30,000円×1.0式	30,000	30,000

	運搬費	30,000円×1.0式	30,000	30,000
	雨水貯留樽			
	ウイスキー樽 径0.45H0.61	52500円×9個	472,500	472,500
	縦樋分流器	45000円×7ヶ所	315,000	315,000
	散水栓 真鍮W1/2	10,000円×9ヶ所	90,000	90,000
	架台用修景レンガ 210×100×60	300円×24個×9ヶ所	64,800	64,000
	敷き砂利(白)	2000円×4袋×9ヶ所	72,000	72,000
	花鉢	300円×16個×9ヶ所	43,200	43,200
	水性ペンキ (1ℓ)	2000円×2缶	4,000	4,000
	集水器			
	ゴムシート	1500円×0.5㎡×40本	30,000	30,000
	ビニールパイプ	200円×2.0m×80本	32,000	32,000
技術管理料	作業指導料※1	50,000円×4日	200,000	200,000
加工、設置費用 材料費※2	樽及び集水器の 飾り付け、設置費用		200,000	0
合計			3,602,720	3,402,720

想定整備費積算内訳書についての補足説明やPRしたい点があれば、記入してください。

地下貯留槽については既設駐車場の掘削、アスコンの打ち替え等があるため専門業者に一括発注しますが、それ以外は専門家の指導の下で住民ボランティアによる作業となります。

※1 専門業者に作業指導してもらって、住民ボランティアでできることは、作業していただきます。

※2 労力に対しては地域通貨「つづきリーフ」で支払います。

注1) 内訳欄は経費等を除き、原則として「一式」表示をしないでください。参考見積書も同様としてください。

注2) 整備助成申請額の総額は500万円以内としてください。

注3) できるかぎり参考見積書を添付してください



■理容店の地下水活用へ向けた調査

当初、理容店の地下水を活用した井戸を計画していた。  
その実現性について、専門家の指導の下、調査を行った。

調査日 2005年9月13日

調査内容 ・地下浸透柵の状況確認  
・地下水の水質、水量調査

調査結果 ・柵の中に生活雑排水が混入している。  
・柵の状況を観察していると水位の状況が一定でなく、地下水が混入してくるのではなく、周囲の絞り水（雨水）が流入していると思われる。  
・地下水であっても水量は微量で使用するには少なすぎる。  
(第1回調査：約0.72ℓ/分、第2回調査：約0.28ℓ/分)

結論 井戸として使用するには、水量・水質ともに問題がある。

■地域へのPR

えだきんニュース（地域で3,000部発行）などで毎号掲載している花情報とともに、まち普請事業への応募を地域へアピールし、ワークショップなどへの参加も呼びかけた。



■えだきん水やり施設づくりワークショップ

水やりの施設をどのような手段で、どのような形で作っていくか検討を行った。  
専門家による地下水調査の結果報告、与条件・制約条件などの説明を受けた後、実際に整備予定箇所を見て周り、議論を行った。  
まちあるきでは雨どいの位置を確認し、地下式雨水貯留槽や雨水貯留樽の設置箇所を検討し、イメージを膨らませた。  
議論の中では、活用のイメージやデザイン、歩行者専用道路の樹木に降った雨水を活用するアイデアなどもでてきた。

日時 2005年10月16日（火）16:00～18:30  
場所 荏田近隣センター、えだきんパーク  
参加人数 花\*花倶楽部のメンバー、地域住民など計12名  
内容 地下水調査の結果報告  
まちあるき（整備箇所の想定、イメージの共有）  
議論（整備箇所の確認、デザイン等の検討）



## ■花壇づくりを通じた人のふれあい

もともと障害者や小学生などと協働で（ハマロードサポーター制度）歩行者専用道路の花壇づくりを進めてきたが、水やりが容易にできるようになることによって、花壇オーナーや水やり、花壇づくりなどにこれまで以上に気軽に参加できるようになる。皆が地域により愛着を持てる、憩いの空間ができる。



子ども達との花植え



障害者、学生などとの協働による花壇づくり

## ■地球環境を考え、実践する場としての役割

花壇がより整備されることによって緑が増える。また、打ち水などを行うことによるヒートアイランド現象への効果もあるなど、地球温暖化対策の実践の場となる。昨年度から地球温暖化防止講座を考える講座を開催しており、地域の関心も高い。

将来的には、地下式雨水貯留槽の汲み上げを太陽光発電で行うことも検討している。今後もエコグッズの展示なども予定しており、近隣の小学校と連携した環境教育の場としての役割を担うこともできる。

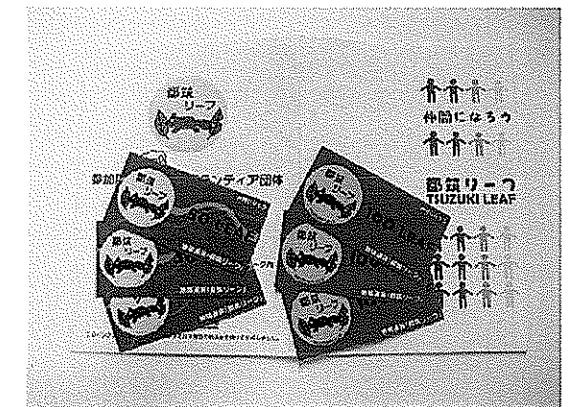


地球温暖化防止イベント (2005.08.24)

## ■地域通貨「都筑リーフ」の活用

これまでも、花壇作りなどの協力者のお礼などとして活用されている。(過去の荏田近隣センターでの配布実績は90,000リーフ) 荏田南近隣センター商店街の13店舗でも使うことができ、“配る場”であるとともに“使う場”でもある。この提案でも整備に参加・協力してくれるボランティアへの配布を予定している。整備後においても水やり、メンテナンスなどでの活用が考えられる。

今後、花壇づくり、水やり、水やり設備メンテナンスなど配る場としての充実が期待できる。使う場としてのより一層の充実が進めば、地域まちづくり誘発の媒体としての役割が発揮されることが期待される。



地域通貨「都筑リーフ」

## ■幅広いまちづくりの展開

地下式雨水貯留槽は初期消火用水としてなど、災害時の活用が可能。日常的に人が集まる場でもあり、小学校と近接していることなどからも地域の防災拠点としての役割を担うこともできる。

これまでの「花」に加え、「水」というツールが増えることにより、イベントなどの活動の幅も広がる。夏には浴衣を着て打ち水をやったり、縁台を出して夕涼みができるような場にもなる。



イベントの様子